



### 第30回老人クラブ芸能大会

■2月24日、市民会館で開催されました。市内の老人クラブから10団体が出場し、踊りや歌、体操などさまざまな演技を元気に披露しました。



### こどもカツオマイスター検定

■第6回枕崎こどもマイスター検定が3月5日、地場センターで行われました。市内の児童61人が参加し、カツオのワラ焼きや鰹節削りなどの実技試験と筆記試験に挑戦しました。



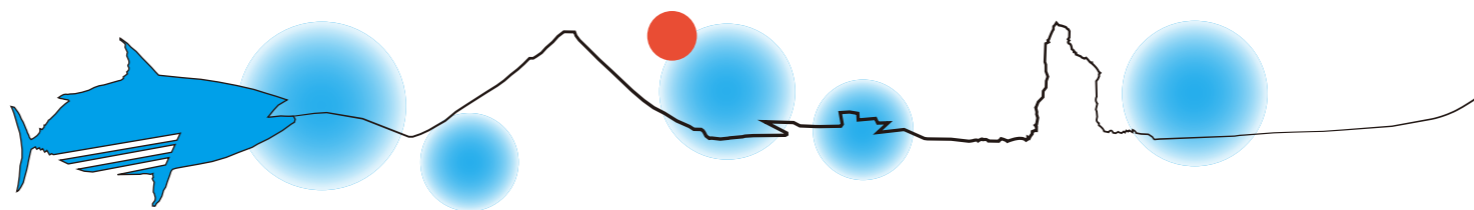
### 平成27年度大塚花き生産者協会品評会

■3月4日、大塚公民館で行われ、電照菊を中心に76点の出品がありました。審査員が草姿や揃いなどを審査し、45点が入賞しました。



被災地へ復興の  
願いを込めて

■東日本大震災から5年を迎えた3月11日、「ストリートピアノでつなぐ祈りのハーモニー」がお魚センターで開催され、参加者は黙とうをささげた後、ストリートピアノの演奏に合わせて復興への願いを込めて「ふるさと」などを歌いました。



情報通信科3年生



食品工学科2年生

### 資格試験にクラス全員が合格

～鹿児島水産高校(情報通信科3年、食品工学科2年)

鹿児島水産高校の情報通信科3年生40人と食品工学科2年生17人の全員が資格試験に合格しました。

情報通信科3年生は、国家資格である「陸上無線技術士」を取得。また、食品工学科2年生は、食品衛生管理の知識を検定する「HACCP基本技能検定」に合格しました。両クラスともクラス全員での合格を目指し、授業開始前や放課後、夏休みなどに補習を行い、試験に挑みました。

内園裕大さん(食品工学科2年)は「専門用語を覚えるのが難しかったです。3年生になったら、食品技能検定3類で全員合格を目指したいです」と話していました。



### 枕崎の海の幸・山の幸が集結

～まくらざき春の市

「まくらざき春の市」が3月20日、枕崎港内港の水揚げ場で開催され、市内外から多くの人出で賑わいました。会場には新鮮な海の幸や山の幸が並んだほか、市内小学校6年生の卒業記念イベントの「70歳の海苔巻き作り」に挑戦などもありました。

### 「昆鯉 枕崎鯉大トロ丼～寿～」がグランプリ

～鹿児島マラソン2016 Show-1グルメグランプリ特別大会

3月6日に開催された「鹿児島マラソン2016 Show-1グルメグランプリ特別大会」で、枕崎市通り会連合会(加藤隆一会長)の「昆鯉 枕崎鯉大トロ丼～寿～」がグランプリに輝きました。大会には、第6回Show-1グルメグランプリに出場した9団体が参加しました。

加藤会長は「昆鯉 枕崎鯉大トロ丼～寿～」が圧倒的な支持を得てグランプリをとることができました。今後も、さらに美味しく進化をさせていきますので、応援よろしくお願いします」と話していました。

また、「昆鯉 枕崎鯉大トロ丼～寿～」は、4月1日から市内4店舗(だいとく、五条、枕崎お魚センターレストラン「ぶえん」、ABC、American Bar Canon)で販売されています。ぜひご賞味ください。



### 努力して継続する大切さを伝える

～枕崎鯉節大使の猫ひろしさんが講演

3月14日、枕崎鯉節大使の猫ひろしさんが「努力はうらぎらにやい」と題した講演会を枕崎小学校で開催しました。お笑いタレントとして活動しながらカンボジア代表として五輪出場を目指す猫さんは、テレビ番組がきっかけでマラソンを始め、毎日走り込みを行った結果、自己記録を更新し続け、一昨年はアジア大会出場を果たしたことをユーモアを交えながら話しました。また、「好きなことができたなら猫まっしぐらに挑戦して、決してあきらめないで」と、努力して継続する大切さを伝えました。



ほっとホット  
フォトニュース



### 水高マグロ約46トンを水揚げ

～鹿児島水産高校実習船「薩摩青雲丸」が帰港

鹿児島水産高校の実習生20人を乗せた実習船「薩摩青雲丸」が3月17日、70日間のハワイ沖でのマグロはえ縄漁を終えて枕崎港に帰港しました。帰港式が終わると水揚げが始まり、魚槽から次々とマグロがクレーンでつり上げられました。今回の水揚量は46.6トン。今後は県内のスーパー等で「水高マグロ」として販売される予定です。実習生の東郷優海さん(2年)は「実習を終えて達成感でいっぱいです。船乗りを目指しているので今回の実習を道に生かせたらいいなと思います」と話していました。また、平成28年度の第1次航海では、初めて横浜港に寄港する(5月28日寄港予定)ことになっています。



### 児童が方言劇に挑戦

～鹿児島弁を使った寸劇を披露

3月5日、NPO法人たんぼほで鹿児島弁の寸劇が行われ、地元住民や枕崎児童クラブの児童らが鑑賞しました。寸劇を披露したのは、鹿児島弁を伝承するため県内各地で活動をする「NPO法人残していきたいかごま弁」のメンバー。子どもたちにも理解しやすいように解説付きで寸劇を披露しました。最後には児童らも劇に参加し、鹿児島弁のセリフに挑戦していました。田代悠莉くん(枕崎小2年)は「劇をすることで鹿児島弁が少し理解できるようになりました。演技も楽しかったです」と話してくれました。